

お茶とジャズの出逢うまち

“Tea for Jazz!!” in YAWATA



上 オープニングセレモニー「お茶で乾杯！」(松花堂庭園)
中 演奏する京都八幡高校吹奏楽部(さざなみ公園)
下 ファイナルを飾るRandy Ingram & Matt Brewer + 篠崎雅史(文化センター)

プロの演奏と特産茶満喫

市内3会場に3000人

八幡ならではのお茶(C ha)とジャズ(Jazz)の新しい楽しみ方を提案する「Chazz in YAWATA」が9月23日、松花堂庭園、文化センター、さざなみ公園の3会場で行われ、約3000人の来場者がお茶を味わいながらジャズを楽しみました。

このイベントは、昨年、市の市制施行40周年を記念するとともに、山城地域で展開された「お茶の京都博」のエリアイベントとして市が初めて開催。2回目の今回は、市などが構成する実行委員会が主催し、プロのジャズ奏者や吹奏楽部の学生など9組が出演しました。

松花堂庭園と文化センターでは、プロのジャズ奏者オーピングステージを務める山添ゆかカルテット(松花堂庭園)

たちが出演。同庭園でのオーピングステージは山添ゆかカルテットが務め、ピアノやベースなどの音色に乗せて、心地よい歌声を響かせました。

さざなみ公園では、男山東中学校や京都八幡高校の吹奏楽部などが演奏を披露。また、各会場では八幡市産の碾茶や抹茶などが味わえるコーナーもあり、来場者たちはお茶とジャズが出逢う一日を満喫していました。

大阪から訪れた坂上晴香さん(21)と中井智郁さん(21)は「ジャズバーだとハードルが高いので、こういう開放感がある中でゆっくりしながら聴けてよかったです。お茶もおいしくて、普段飲んでいけると全然違いました」と笑顔で話していました。

歌って学んで介護予防

音楽療法での介護予防を目的とした催し「歌ってスマイルスペシャル」が9月22日、生涯学習センターで行われ、60歳以上の高齢者など約40人の参加者が、楽器を鳴らしながら歌うなどしました。

この催しは、地域の高齢者に歌や楽器演奏などによる療法的な音楽活動を通して、いきいきと元気な生活を送ってもらうと、市内などで活動する介護予防を目的とした音楽サークル「歌ってスマイル」が主催しました。

第1部では、愛仁会総合健康センター所長の杉林稔さんが、「介護予防における音楽の効果」をテーマに講演。「歌うことで唾液の分泌量が増え、感染症の予防になる」など、医学の観点から音楽の効用を紹介しました。



音楽療法を体験する参加者たち

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。



堀口市長から賞状を受け取る柏原喜美さん(左)

新100歳 いつまでもお元気で 市長ら訪問 長寿祝う

9月17日は「敬老の日」。市内には今年度100歳を迎えられる市民が15人おられ、堀口市長と森川議長は9月24日、そのうち在宅で生活されている2人を訪問し、長寿のお祝いをしました。

来年の1月に100歳を迎えられる柏原喜美さんは、第五区集会所で市長らを出迎えられ、賞状と記念品を贈呈されると、日ごろの生活などをこやかに話されました。

子ども4人、孫7人に恵まれた柏原さんは、娘さん家族と4人暮らし。食事は好き嫌いなく

なんでも召し上がられ、毎日散歩に出掛けられては、友達とお話をされています。

また、毎月、第五区集会所のカラオケやコーヒー喫茶に通われており、友達と一緒に歌を歌われたり、お話ししながらお茶をされたりするのを楽しまれています。

柏原さんは「皆さんと仲良くお話ししたり、食事をおいしくいただいたりするのが元気の秘訣ですね。皆さんに本当に優しくしていただいています」と笑顔で話されていました。